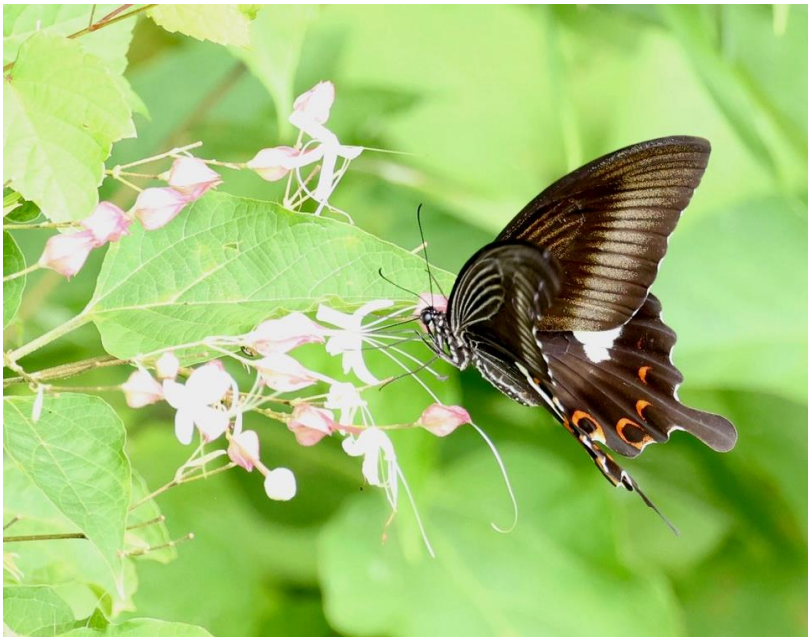
猪高の森自然観察だより　8 月号

開催日時:2022 年 8 月 19 日(金)　9:30～12:00
天候:晴　　気温:最低 22.9℃、最高 32.9℃(名古屋に於いて)

テーマ：定例観察会ではないのでテーマはありません。
参加者構成：名東自然倶楽部員 7 名（内 NACS－J 指導員 3 名）
コース：森の集会所　→　シダレザクラの里　→　こもれび池　→　ハンノキ湿地→　井堀の棚田　→　井堀下池　→　森の集会所

８月は、北日本と日本海側に前線が停滞し、各地で記録的な雨量を記録するなど不順な天候が続きました。東海地方でも台風がかすめ、ここ名古屋でも雷注意報が連日のように出、突然に雨が降るなど不安定な天候です。この日は特別といってよいほどの晴天でした。東海地方の梅雨明けも 7 月 23 日に変更されました。
セミの声もクマゼミからツクツクホウシにうつり、そして、夕方にはコオロギたちの声に代わりつつあります。

●クサギの花が咲き始めました
このたよりでも時々紹介されている**クサギ**。独特の香りによって語られることが多い樹ですが、数少ない夏に開花する樹の一つです。昆虫たちも良く訪れます。



クサギの蕾は日当たりの良い場所では、淡いピンク色になりますが、咲くと白色になります。秋には、変わった形の青色の実がなります。一つの樹や花を一年を通して観察するのも良い方法です。このクサギは春には、クサギカメムシのよく居る樹として載せています。一つの樹を中心に季節ごとに、どんな変化があり、どんな他の虫たちが利用しているのかを観察するのも面白いものです。

さて、一緒に写っている**モンキアゲハ**ですが、南方系のチョウで以前から分布拡大の傾向があり、1950 年代頃の北限は福島県でした。2011 年の調査では太平洋側では宮城県、日本海側では新潟県とされています。徐々に北に分布を広げているのは、温暖化の影響で

でしょうか！（参考資料：自然しらべ 2021　チョウの分布　今・昔　日本自然保護協会）

●散策路で出会った、スズメバチの肉団子作り

歩いていると、散策路の真ん中で、ハチが何かしています。

スズメバチの仲間は腹部の模様が異なるので、種類の判断はそれで大体はわかります。

これは**モンスズメバチ**。他の小さな生き物を捕えて、自分たちの幼虫の餌とするのが、スズメバチたちの生業ですが、この種類は特にセミを好んで狩るとの事です。

このとき、肉団子にされていたのはまさにアブラゼミでした。他に、チョウ、バッタ、クモ、ミツバチなどを獲物にします。

このモンスズメバチの仲間はヨーロッパを代表するスズメバチです。

ヨーロッパでは、「本種に 3 度刺されると死ぬ」という言い伝えがあり、（本当はそんなに毒性は強くない。）恐怖心から巣を片っ端から除去した結果、著しく個体数が少なくなり、地域によっては、絶滅危惧種になっています。国によっては保護種となり、殺すと罰金だそうです。

スズメバチは晩夏から秋にかけて攻撃性が高くなるので、散策するときには特に注意してください。黒い服を避け、香水を付けず、もし、出会ってしまったら去るまでじっとしているか、ハチが気がつかないようにそっとその場を離れてください。手で払うようなことは決してしないでくださいね。

（参考資料：上野高敏　スズメバチ事典）

●茶色になる前のどんぐり付きの枝先が落ちています・・・

コナラの枝先があちこちに落ちていました。これは**ハイイロチョッキリ**というゾウムシの仲間の仕業。右の画像で枝の切り口がきれいで（緑色の）ドングリのはかまに穴が開いているのは産卵痕です。

産卵したあとで、枝ごと切り落とします。幼虫は

ドングリの中身を食べた後に、土に潜り、蛹になって、来年まで過ごします。
通称でドングリ虫といわれている仲間の一つはハイイロチョッキリの幼虫です。

●クロウリハムシのトレンチ行動って何？

葉っぱを食べる虫たちに対して、植物たちも何もしていない訳ではありません。色々な化学物質を出して、摂食防御を試みています。マメ科のシアン配糖体、セリ科のクマリン、ウリ科のククルビタシンなどがあります。乳液や樹脂などの粘性物質を用いて防御をしている植物もいます。

葉を食べる虫たちの中には、あらかじめ葉に切れ込みを入れて、防御物質が摂食部分に流れ込まないようにしてから、しばらくしてしおれた部分を食べる仲間がいます。

上の２枚の画像の**クロウリハムシ**もそうです。丸く切れ込み（トレンチ）を入れてから、中の部分を食べています。左の葉は大分食べられていますね。

虫と植物のせめぎ合いの一つです。

●うどんこ病菌を食べるテントウムシ

テントウムシが食べるものと言えば、ナナホシテントウを代表とするアブラムシがよく知られていますが、家庭菜園をされている方なら、ナスの仲間の野菜の葉を食べるニジュウヤホシテントウも思い当たるでしょう。

ここでは、梅雨時など湿度の高い時期に出る病気のひとつ、うどんこ病を食べるテントウムシを紹介します。

左が**キイロテントウ**、右が**クモガタテントウ**（外来種）です。

うどんこ病が出たらその場所を探してみてください。きっと見つかると思います。秋霖の時期にもうどんこ病は発生します。

●少ないながらもこんな花が咲いていました。

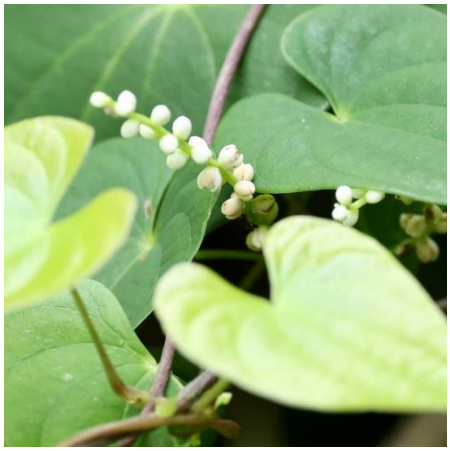
この時期は、比較的水辺で咲いている花が多いように感じました。

数少ない花に昆虫たちが。集まっています。

（画像は７月のものも含みます）

左はタイワンタケクマバチとミソハギ
右はジュズダマ（小さい頃遊びませんでしたか？）

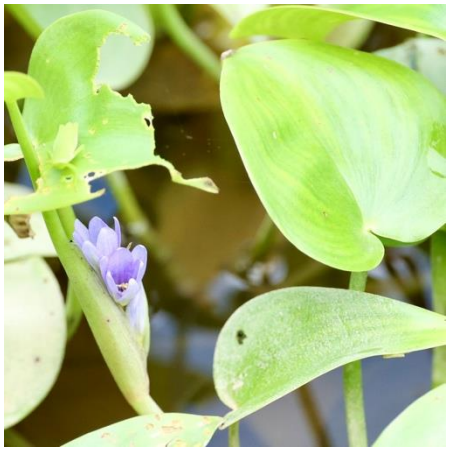
左はキツネノマゴ
右はオモダカ



左はヤマノイモ（雄花）
右はツユクサ

左はヘクソカズラ
右はガガイモ

左はヨメナの仲間
右はメリケンムグラ（外来種）



左はコナギ
右はマンリョウ

左はヌマトラノオ
右はイヌザンショウ

左はスズメウリ
右はオニユリ

●トンボの仲間も７月に続きます（画像は７月のものも含みます）

左はハラビロトンボ（♀）、右は同（♂）

左はコシアキトンボ、
右はチョウトンボ

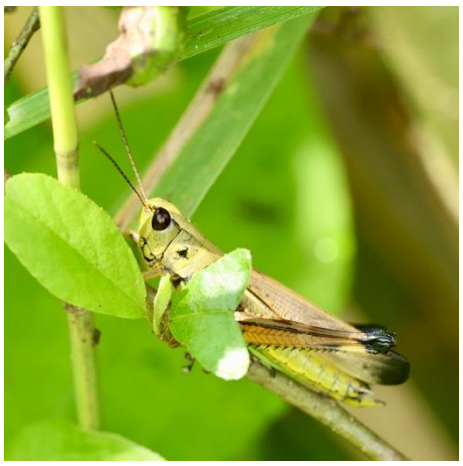
左はシオカラトンボ（♂）、
右は同（♀）

左はウチワヤンマ（尾端の膨らみが特徴です。）

　トンボの仲間は雌雄で色合いの異なる種類がよくあります。
　このほかにも、オニヤンマやギンヤンマも確認できています。飛んでいるトンボの撮影は難しいですね。

●夏の生き物いろいろ！（画像は７月のものも含みます）

左は**ヌマガエル**（亜生体）
右は**トノサマガエル**（亜生体）



左は**ツマグロバッタ**
右は**ショウリョウバッタ**
（終令幼虫）

左は**アオドウガネ**
右は**トゲヒシバッタ**

左は**アカハナカミキリ**
右は**マメコガネ**

左は**ムラサキシジミ**
右は**ベッコウハゴロモ**

左は**イノコヅチカメノコハムシ**
右は**キノコムシの仲間**

左の葉の丸く切れているのは**ハキリバチの仲間**の仕業
右は**ウズグモの仲間**の巣

他にも多くの生き物たちに猪高の森を歩くと出会えます。
一緒に歩きませんか？

次回の観察会は

９月２５日（日）森の集会所集合　９：30～

です。